

令和6年度 飯豊町立いいでの森学園開校に関する説明会 質疑応答集

日時：令和6年9月18日（水） 18時30分～

会場：町民総合センター「あ～す」多目的ホール

説明会の中で参加者の方からいただいた施設一体型での開校することに関する質問や意見、それに対する回答を要約して記載します。

質問事項	回答
<p>①学校統合と校舎整備の財源について</p> <p>学校統合には賛成であるが財政面が心配である。増築に係る費用が借金として子ども負担になる懸念がある。増築がいらなくなる8～9年後まで待つてはどうか。</p>	<p>令和3年度の学校再編に係る専門家会議の時点では、町の年間の出生者数は30人前後の状況にありました。会議では、1学年1クラスとなり、小学校が4つのままの場合、または統合して2つになったとしても、小学校運営が立ち行かない状況になるとことが予測されました。</p> <p>先生の配置についても、中学校の場合、9教科ありますが、1学年1クラスになると、専門の教科の先生が十分に配置してもらえない状況が考えられました。義務教育学校で施設一体型での1～9年生の学校となれば、小学校と中学校の先生が協働で、英語や数学といった専門的な授業を、5、6年生に指導してもらうことも可能になります。</p> <p>第一小でも、数年後には、1学年11名になる学年が出てきます。令和5年度の町全体での出生者数は24人でした。第一小でも複式学級が発生する時期がきます。本町にとって持続可能な学校は、義務教育学校1校にしていくことと判断したものです。校舎整備の財源が一番の課題であることは、そのとおりです。財政面の心配についても、子どもたちに負担にならないような最善の方法で進めてまいります。</p>
<p>②複式学級への対応について</p> <p>手ノ子小は、複式学級のままでこれからも進むことになるのか。今の子供たちへは何の措置もされないままなのか。</p>	<p>開校を延期することで、手ノ子小と添川小学校の複式学級が続くこととなりますが、早期の開校に向けて、現在、町長部局と協議を進めているところです。どうぞご理解ください。</p>

<p>③段階的な学校の統合について 小学校2校・中学校1校という組み合わせを検討したか。</p>	<p>小学校の再編については、平成17年度から議論が始まり、第一小と第二小・手ノ子小・添川小を統合した小学校の2校に再編することを検討していましたが、校区内での合意形成が難しく整わなかった経過があります。</p> <p>第二小・手ノ子小・添川小の児童が集まったときに、第二小の教室には入りきれない学年が出てくることから、一部改修が必要になります。2段階で改修経費をかけるのではなく、義務教育学校の教育的効果や持続可能な学校とするため、初めから施設一体型で開校することを決めたものです。</p>
<p>④校舎の増改築について 施設一体型には賛成だが、急ぐ理由がわからない。急いだ結果、中途半端な増改築に終わってしまわないか、心配である。</p>	<p>施設一体型での開校に計画を変更するにあたり、わくわく感の弾む学校への期待に応えられるよう学校環境の整備が必要と考えています。その計画の見直しをさせていただくため開校時期を延期するものがあります。どうぞご理解ください。</p>
<p>⑤計画の説明と意見の集約について 一方的な説明でなく、保護者や地域の声をていねいに拾ってほしい。</p>	<p>義務教育学校及び施設一体型での開校については、町長を座長とし、教育委員の方々に構成する総合教育会議で決定されたものです。町の教育行政を決める最高機関となります。この会議では何度も議論を重ねていただきました。保護者の声を聞く部分が足りなかったのではないかと指摘につきましては、反省をさせていただきます。本日参加できなかった保護者の方への説明会も、今後、丁寧に行っていきます。</p>
<p>⑥今後の説明会について 計画の見直し、財源の確保等を検討した結果、再度説明会は開くのか。</p>	<p>施設一体型の整備に向けた方向性が決まりましたら、改めてこういった場を設け、説明させていただきます。</p>
<p>⑦極小規模学校への教職員の配置について 開校が延びた場合、手ノ子小・添川小への先生方の配置はどうなるのか。</p>	<p>現在の手ノ子小は、学級数は複式学級で2つです。本来であれば、養護の先生と事務の先生は、国の基準では配置されないこととなります。しかし、今、国や県の加配をいただいて、2学級でも、養護の先生と事</p>

	<p>務の先生を配置していただいている状況です。開校が延び、1つの学校の状態のままであれば、手ノ子小・添川小ともにこれまで同様の教職員の配置をしていただけるものと考えています。</p>
--	--